2010年（平成22年）5月11日（火曜日） ©中日新聞東京本社2010 （日刊）

東京新聞 夕刊

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話03(6910)2211

放射線

母の日に

一昨日の母の日を皆さんはどのように過ごされましたか。

国連人口基金東京事務所では、ツイッターで「お母さん、ありがとう。」のメッセージを募集した。百四十字のつぶやきでどれだけの思いが伝えられるのか、一つの挑戦でもあった。

私の年のせいなのかもしれないが、これが、泣けるのである。

「天国のお母さんありがとう。海苔（のり）の佃煮（つくだに）と味噌（みそ）汁おいしかったよ」

「お母さんと私の笑顔が最近似ています。ちょっと豪快な笑い方も。笑顔いっぱいに育ててくれてありがとう」

「なかなか言えなかった。今は、自信を持って言えるよ。お母さん、私を産んでくれてありがとう」

ありがとう、という感謝の言葉に感動するのか、それぞれの人の事情に思いをはせるからなのか、それとも、母親でもあり娘でもある自分の中にある、何かに触れるからなのか。いただいたメッセージ、一つ一つに心をうたれ、目がうるんでしまった。

〝産み〟〝育てる〟というお母さんの存在は、どんな人にとっても自分の生存そのものにかかわる。短い言葉のなかに奥深い、温かいものを感じたのだと思う。

なお、コンテストの結果は、お母さんの命を守るキャンペーンの著名人サポーターが応援・提供してくださった賞品をお贈りし、ホームページ上でご紹介する予定である。

（池上　清子＝国連人口基金東京事務所長）